

令和3年6月25日

令和3年度第1回世界農業遺産等専門家会議  
三重県尾鷲市、紀北町における更なる保全・活用に向けた助言

- 1 本システムが熊野古道とも関連し、生業や文化との連携強化が成されている点や、間伐材を海域に設置する取組により森と海の繋がりを作り出している点は大変評価できる。今後は、他のステークホルダーを巻き込み、取組を一層強化されることを期待する。
- 2 現代社会の中に生きた伝統として、ドローンなどの近代的なスマート技術も活用し、技術を継承するという明確なストーリーの下で後継者育成に尽力されている。今後もシステムの持続性を維持するためには、後継者育成の取組をさらに強化していく必要がある。
- 3 FSC 認証等による森林のブランド化を積極的に取り組んでいる点は評価できる。地域の林業が経営的に成り立つことを示し、他地域のモデルになるような情報発信を積極的に行っていただきたい。
- 4 木材は、住宅資材に利用された際も炭素固定され、他の資材を使うよりも環境負荷の小さい資材とされている。このことから、パリ協定実施のための国の目標の中に、住宅資材として国産木材の使用を増加させることが組み込まれた。また、都市ビルへの木材利用が増えている。森林の機能や活用に注目が集まっていることも踏まえ、地域内の国際的活動の実践者とも連携しながら、世界的な潮流に乗ることも重要である。
- 5 農業生物多様性については、モニタリング調査を定期的を実施されたい。
- 6 農業遺産が、熊野古道の語り部活動や地元の学校教育に活かされている点は素晴らしい。今後、現場の課題も含めて語られることや学校教育がさらに広がることを期待する。
- 7 取組状況に係る自己評価がしっかり行われており、評価できる。次期保全計画では、本システムを地域全体へ波及させる方法や、林業者や地域住民の誇りに繋がるさらなる取組を検討し、本地域の日本農業遺産の価値を向上いただきたい。また、実際に成功している取組については、取組過程を定量的に評価し、保全計画に反映させることで、次世代に繋げる励みにされたい。

(以上)